

Asia Indicators

発表日: 2023年10月6日(金)

アジアで食料、エネルギーインフレ再燃の兆し(Asia Weekly(9/29~10/6))

～幅広い商品市況の底入れの動きを受けて生活必需品を中心にインフレが再燃する動きがみられる～

第一生命経済研究所 経済調査部

首席エコノミスト 西濱 徹(Tel: 03-5221-4522/050-5474-7495)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
9/29(金)	(香港)8月小売売上高(前年比・数量ベース)	+11.0%	--	+14.2%
9/30(土)	(中国)9月製造業 PMI	50.2	50.0	49.7
	9月非製造業 PMI	51.7	--	51.0
10/1(日)	(韓国)9月輸出(前年比)	▲4.4%	▲9.1%	▲8.3%
	9月輸入(前年比)	▲16.5%	▲17.6%	▲22.8%
	(中国)9月財新製造業 PMI	50.6	--	51.0
	9月財新サービス業 PMI	50.2	--	51.8
10/2(月)	(インドネシア)9月消費者物価(前年比)	+2.28%	+2.20%	+3.27%
10/3(火)	(オーストラリア)金融政策委員会(政策金利)	4.10%	4.10%	4.10%
10/4(水)	(ニュージーランド)金融政策委員会(政策金利)	5.50%	5.50%	5.50%
	(韓国)8月鉱工業生産(前年比)	▲0.5%	▲6.2%	▲8.1%
10/5(木)	(韓国)9月消費者物価(前年比)	+3.7%	+3.4%	+3.4%
	(フィリピン)9月消費者物価(前年比)	+6.1%	+5.3%	+5.3%
	(タイ)9月消費者物価(前年比)	+0.3%	+0.8%	+0.9%
	(シンガポール)8月小売売上高(前年比)	+4.0%	--	+1.3%
	(台湾)9月消費者物価(前年比)	+2.9%	+2.4%	+2.5%
10/6(金)	(インド)金融政策委員会(レポ金利)	6.50%	6.50%	6.50%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

【韓国】～生活必需品を中心にインフレ再燃の兆しが出るなか、頭打ちが続いた外需に底打ちの兆しも～

1日に発表された9月の輸出額は前年同月比▲4.4%と12ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しているものの、前月(同▲8.3%)からマイナス幅は縮小している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底打ちの動きを強めている。国・地域別でも、米国やEUなど主要先進国向けを中心に堅調な動きがみられるほか、最大の輸出相手である中国向けにも底打ちの動きが確認されるなど、幅広い地域向けで底入れの動きが進んでいる。財別では、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連は引き続き力強さを欠く展開が続いているものの、自動車や機械製品、船舶などの堅調さが輸出全体を下支えしている。一方の輸入額は前年同月比▲16.5%と7ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しているものの、前月(同▲22.8%)からマ

イナス幅は縮小している。前月比は2ヶ月連続で拡大しているものの、中期的な基調は減少傾向で推移するなど底打ち感が出るも勢いの乏しい展開が続いている。このところの商品市況の底入れの動きを反映して輸入額が押し上げられているものの、輸出を巡る不透明感や家計消費をはじめとする内需の回復の遅れが需要の重石になっている。結果、貿易収支は+36.97億ドルと前月（+8.79億ドル）から黒字幅が拡大している。

4日に発表された8月の鉱工業生産は前年同月比▲0.4%と11ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しているものの、前月（同▲8.1%）からマイナス幅は縮小している。前月比も+5.5%と前月（同▲2.0%）から3ヶ月ぶりの拡大に転じるとともに、そのペースは3年2ヶ月ぶりの高い伸びとなっており、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど底打ちの動きを強めている。分野別では、製造業のみならず、鉱業部門や建設部門、公益部門など幅広い分野で生産活動が底打ちの動きを強めている様子が確認出来る。製造業のなかでは、主力の輸出財である半導体をはじめとする電気機械関連で生産が大きく上振れしているほか、その生産に必要な機械製品関連の生産も旺盛な推移をみせるとともに、自動車など輸送用機械関連の生産も前月までのストに伴う生産下振れの反動も重なり底堅い動きをみせている。また、家具などの木製品のほか、食料品や縫製品といった軽工業関連の生産も底堅い動きをみせる一方、金属関連や化学関連など重工業関連の生産は力強さを欠く動きをみせるなど、分野ごとの跛行色が鮮明になる様子もうかがえる。ただし、半導体を巡っては生産拡大の背後で在庫が積み上がる形で出荷・在庫バランスが悪化する動きが確認されるなど、先行きの生産活動に不透明感がくすぶる状況は変わっていない。

5日に発表された9月の消費者物価は前年同月比+3.7%となり、前月（同+3.4%）から加速して5ヶ月ぶりの伸びとなっている。前月比は+0.59%と前月（同+1.02%）からペースは鈍化するも3ヶ月連続で上昇しており、原油をはじめとする資源価格の底入れの動きを反映してエネルギー価格が上昇の動きを強めているほか、穀物や生鮮品をはじめとする食料品価格も上昇が続いており、生活必需品を中心にインフレ圧力が高まっていることが影響している。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+3.3%と前月（同+3.3%）から3ヶ月連続の同じ伸びとなるなど横這いで推移している。前月比は+0.26%と前月（同+0.24%）からわずかに上昇ペースが加速しており、エネルギー価格の上昇に伴い輸送コストが押し上げられている上、国際金融市場における通貨ウォン安を反映した輸入インフレの動きも重なり、幅広い財価格に押し上げ圧力が掛かる動きがみられる一方、サービス物価に下押し圧力がくすぶるなど、景気に対する不透明感が強まっている様子もうかがえる。

図1 KR 貿易動向の推移

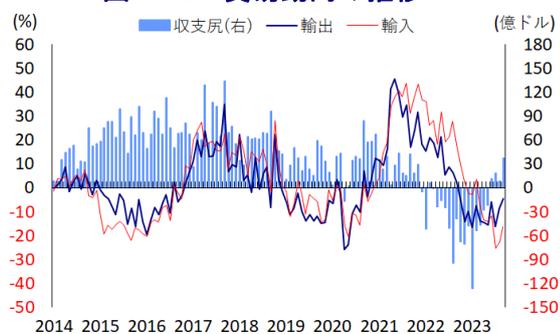


図2 KR 鉱工業生産の推移

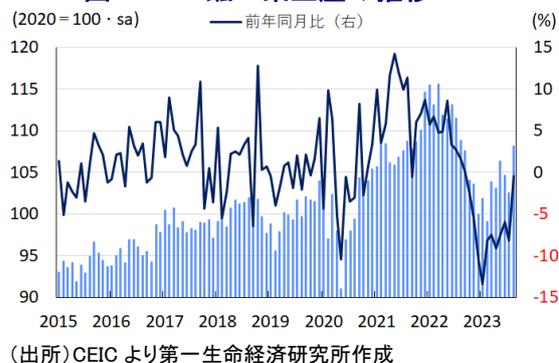
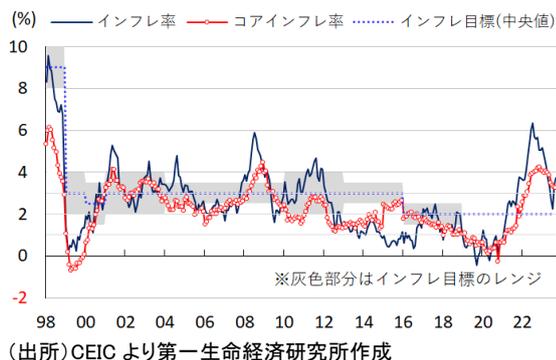


図3 KR インフレ率の推移



[インドネシア]～生活必需品を中心とする物価上昇の動きが顕在化する一方、インフレ率は鈍化が続く展開～

2日に発表された9月の消費者物価は前年同月比+2.28%となり、前月（同+3.27%）から伸びが鈍化している。ただし、前月比は+0.19%と前月（同▲0.02%）から2ヶ月ぶりの上昇に転じており、原油をはじめとするエネルギー資源価格の底入れの動きを反映してエネルギー価格が上昇しているほか、世界的な穀物価格の底入れなどを受けて生鮮品や穀物など幅広く食料品価格も上昇の動きを強めるなど、生活必需品を中心にインフレ圧力が強まっていることが影響している。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+2.00%となり、前月（同+2.18%）から一段と伸びが鈍化して中銀目標（3±1%）の下限近傍で推移している。前月比も+0.12%と前月（同+0.13%）からわずかに上昇ペースが鈍化しており、エネルギー価格の上昇を受けた輸送コストの上振れに加え、国際金融市場における通貨ルピア安を受けた輸入インフレ圧力の高まりを反映して財価格に押し上げ圧力が掛かる動きがみられる一方、サービス物価の上昇に一服感が出るなど、経済活動の正常化を追い風にした景気底入れの動きが一巡しつつある様子が見えてくる。

図4 ID インフレ率の推移

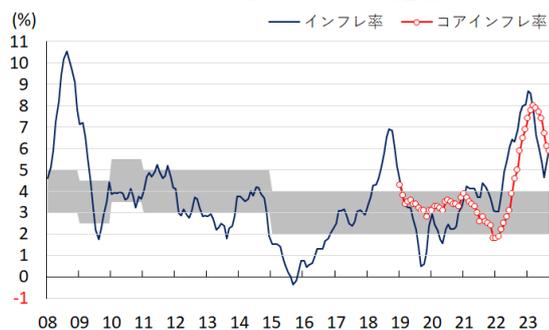


[フィリピン]～生活必需品を中心とするインフレ再燃を反映して、インフレ率は再び加速の動きを強めている～

5日に発表された9月の消費者物価は前年同月比+6.1%となり、前月（同+5.3%）から伸びが加速している。前月比も+1.14%と前月（同+1.07%）から上昇ペースが一段と加速しており、原油をはじめとするエネルギー資源価格の底入れの動きを反映してエネルギー価格が上昇の動きを強めているほか、世界的な穀物価格などの上昇を受けて幅広く食料品価格も上昇が続いており、生活必需品を中心にインフレ圧力が強まっていることが影響している。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は

は前年同月比+5.9%と前月（同+6.1%）から一段と伸びが鈍化する展開が続いている。前月比は+0.24%と前月（同+0.41%）から上昇ペースが鈍化しており、エネルギー価格の上昇を反映して輸送コストの押し上げに加え、国際金融市場における通貨ペソ安を受けた輸入インフレも重なり幅広く財価格が押し上げられる一方、サービス物価の上昇に一服感が出るなど景気底入れの動きが一巡しつつある様子がうかがえる。

図5 PH インフレ率の推移

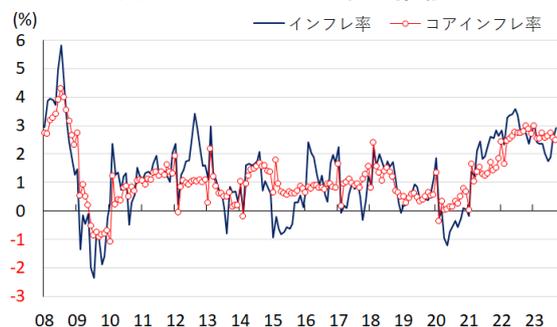


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[台湾]～生活必需品を中心とする物価上昇の動きに加え、幅広くインフレ圧力が強まる動きがうかがえる～

5日に発表された9月の消費者物価は前年同月比+2.9%となり、前月（同+2.5%）から伸びが加速している。前月比も+0.63%と前月（同+0.56%）から上昇ペースが加速しており、原油などエネルギー資源の国際価格が底入れの動きを強めていることを反映してエネルギー価格が押し上げられているほか、世界的な食料インフレの動きを受けて穀物や生鮮品を中心に食料品価格も上昇の動きを強めており、生活必需品のインフレ圧力が強まっていることが影響している。なお、生鮮食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+2.48%と前月（同+2.57%）から伸びが鈍化する展開が続いている。前月比は+0.16%と前月（同▲0.11%）から2ヶ月ぶりの上昇に転じており、エネルギー価格の上昇を受けた輸送コストの上振れの動きに加え、国際金融市場における台湾ドル安に伴う輸入インフレ圧力の高まりを反映して幅広く財価格が押し上げられているほか、サービス物価も緩やかな上昇が続いており、経済活動の正常化の動きが続いている様子がうかがえる。

図6 TW インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[タイ]～生活必需品を巡る物価はまちまちながら、全般的にインフレ圧力が後退している様子がうかがえる～

5日に発表された9月の消費者物価は前年同月比+0.3%となり、前月（同+0.9%）から伸びが鈍化

している。前月比も▲0.36%と前月（同+0.55%）から2ヶ月ぶりの下落に転じており、原油をはじめとするエネルギー資源価格の底入れの動きにも拘らずエネルギー価格に下押し圧力が掛かる動きがみられるほか、穀物価格に押し上げ圧力が掛かる一方で生鮮品価格に下押し圧力が掛かるなかで食料品価格も下振れしており、生活必需品を中心にインフレ圧力が後退していることが影響している。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+0.63%と前月（同+0.79%）から一段と伸びが鈍化する展開が続いている。前月比も▲0.03%と前月（同+0.02%）から25ヶ月ぶりの下落に転じており、国際金融市場におけるパーツ安を反映した輸入インフレ圧力の高まりにも拘らず、エネルギー価格の下落の動きを反映した輸送コストの下振れを受けて財価格の上昇圧力が抑えられているほか、サービス物価も落ち着いた推移が続くなど景気に対する不透明感が高まる兆しがうかがえる。

図7 TH インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[シンガポール]～生活必需品や日用品などへの需要は堅調な推移が続くなかで家計消費に底入れの動き～

5日に発表された8月の小売売上高は前年同月比+4.0%となり、前月（同+1.3%）から伸びが加速している。前月比も+1.71%と前月（同+0.77%）から2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど底入れの動きを強めている。なお、同国では月ごとに自動車販売の動向が大きく上下に振れるとともに、小売売上全体の動向を左右する傾向があるなか、当月は前月比+0.33%と前月（同+16.66%）から2ヶ月連続で拡大していることが影響している。自動車を除いたベースでも前月比+1.87%と前月（同▲0.86%）から2ヶ月ぶりの拡大に転じている上、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど底入れの動きを強めている。食料品やエネルギーといった生活必需品に対する需要は堅調な推移をみせているほか、宝飾品をはじめとする高額消費も底堅い動きをみせる一方、家具など耐久消費財に対する需要や娯楽関連需要は対照的に弱含む動きが確認されるなど、一進一退の動きをみせている。

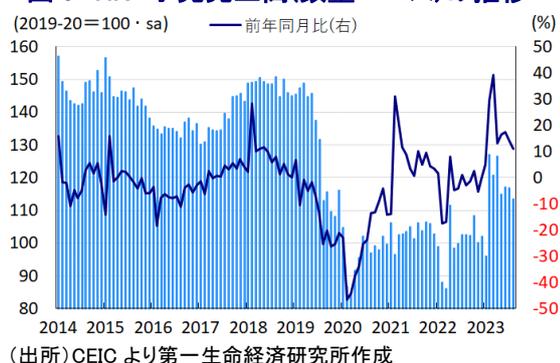
図8 SG 小売売上高の推移



[香港]～昨年末以降底入れの動きを強めた家計消費は頭打ちするも、その内容には跛行色が強まる動き～

29日に発表された8月の小売売上高(数量ベース)は前年同月比+11.0%となり、前月(同+14.2%)から伸びが鈍化している。前月比も▲2.91%と前月(同▲0.17%)から2ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も減少傾向で推移するなど、昨年末以降は底入れの兆しがみられたものの、足下では頭打ちの様相を強めている様子がうかがえる。財別では、食料品やエネルギーなど生活必需品に対する需要は堅調な動きが続くほか、宝飾品など一部の高額消費にも底堅い動きがみられるものの、衣類や靴などの日用品のほか、家具や家電製品をはじめとする耐久消費財に対する需要は弱含む動きがみられるなど、家計消費を巡って跛行色が強まっている様子がうかがえる。

図9 HK 小売売上高(数量ベース)の推移



以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。